

令和4年度 総合戦略 進捗確認シート

(令和5年度実施)

令和4年度 総合戦略 進捗評価シート

(令和5年実施)

1. ずっと住みたいとおもうまち<転出の抑制・住みやすいまちづくり>						
	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)	進捗率	実績に対する分析・評価
農業支援	①新規就農者数 (累積)	0人	3人	5人	60%	【分析】令和3年度までに3名が親元からの承継や部門独立により新規就農者となった。 【評価】目標達成に向け、相談体制の充実や関係機関と連携、農業の魅力の発信を図りながら、承継や新規参入等の新規就農者の確保を行っていく。
雇用の場の確保	②本田上工業団地残り面積	66,338㎡	20,673㎡	0㎡	31.2%	【分析】令和4年度、販売はなかったが事業開始が1件あった。引き続き売却に努めていきたい。 【評価】コロナ禍から回復基調にあり、関係機関や金融機関へのアプローチ、広告の活用を行いつつ、事業所へ向け情報発信を行い売却につなげる。
	③町内生産年齢人口数※各年度3.31時点	6,073人	5,798人	5,505人	-	【分析】転入188人-転出228人と40人の社会減となっている。 理由別にみると「職業」が45人減、「戸籍」が24人減である一方、「住宅」では25人の増となっている。 【評価】住宅に関する施策は効果があったと思われる。今後とも住宅に関する施策を検討していく。また、雇用の場の確保も重要な要素と思われる。
	④町の支援を受けて起業・町内進出した企業数 (累積)	0社	2社	15社	13.3%	【分析】令和4年度から起業・創業支援制度を始めた結果、初年度ではあるが、一定の件数となり、かつ移住も伴い効果があった。 【評価】引き続き制度の周知、国・県などの有利制度の紹介などを通じ応募の増加、起業創業へ向け関係機関と連携を図っていきたい。
住みやすいまちづくり	⑤「住みやすい」と考える町民の割合 (仮)	72.90%	-	80%	-	【分析】町民アンケートによる。民間企業による「住みこち」ランキングでは、県内4位となっている。 【評価】町民アンケートを実施していない為、評価できない。同じ結果にはならないが、今後とも施策を推進していく。
	⑥新規住宅着工件数 (年間)	23件	28件	30件	93.3%	【分析】目標達成はできなかったが、マイホーム取得支援事業など一定の効果があったと思われる。住宅を理由としては、30人の社会増となっている。 【評価】住宅建築におけるニーズを把握し、町外向けに周知し、更なる社会増に繋げていく。
	⑦地域たすけあい事業	4団体	4団体	10団体	40%	【分析】ボランティア活動に対する契約単価が低かったことも1つの原因であると考えられたため、契約単価を増額したが、団体数を増やすことができなかった。地域性から自らリーダーとなって団体を立ち上げる方が少ないため、地域での助け合いの必要性について周知し、機運を醸成する必要があると考えられる。 【評価】地域での助け合いの機運を醸成するため、町政50周年にあわせて、各団体にも呼び掛け等を行い、地域での助け合いについてのフォーラムを開催する。

令和4年度 総合戦略 進捗評価シート

(令和5年実施)

2. 新しい人の流れがあるまち<転入促進・情報発信・にぎわい>

	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)	進捗率	実績に対する分析・評価
転入促進	①移住者数 (累計、町の移住施策等を利用している町外から転入した方)	22人	55人	225人	24.4%	【分析】R3 利子補給 7人、地域おこし協力隊 2人 R4 利子補給 19人、マイホーム 5人 累計 R2 22人+33人=55人 【評価】目標に対し、緩やかに進捗している。これまで以上に制度周知を行い、移住者数の増加に努める。
	②空き地・空き家再生件数 (累計)	1件	2件	25件	8%	【分析】空き家バンクでの登録件数が少ないこと、制度についての認識不足が一因と思われる。登録件数を増加させるために、固定資産税納税通知書に紹介文を同封した。 【評価】14件の新規登録があり、登録件数の増加と制度周知に繋がった。今後とも継続し、再生件数の増加に繋げていく。また、相続手続きが必要な物件が増加してくると思われるため、対策 (例：宅建業者による仲介) を検討していく。
情報発信	③通年観光入込客数 (年間、道の駅含む)	449,163人	751,316人	1,400,000人	53.7%	【分析】新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中であったが、感染症に配慮してイベントを開催すること等によって、一定の入込客数を確保できた 【評価】新型コロナウイルスが第5類に移行されたことにより、入込客数の増加が見込まれる。この機を逃さないよう、各団体と連携を行い、イベント内容をブラッシュアップするなどして、入込客数の増加につなげる。
	④町ホームページのアクセス数 (累計、移住支援のディレクトリ+観光のディレクトリ+ポータルサイト)	移住1,254件 観光88,387件 合計89,641件	移住1,426 観光183,643 ポータル7,649 合計192,718件	750,000件	26%	【分析】R4より開設した移住支援のポータルサイトも順調にアクセス数がある。観光のディレクトリもアクセスが大幅に増えており、他のメディア (CM等) での発信と相乗効果で町の認知度上昇に大きく寄与できたと考える。 【評価】観光のディレクトリだけでなく、移住関係のディレクトリ、ポータルについても、引き続きアクセス数が伸びるようにしていきたい。
	⑤道の駅たがみへの来訪者数	月20,000人	月33,000人	月25,000人	132%	【分析】道の駅たがみを拠点とした各種イベントの開催などを通じ田上町のPRを行うことができた。 【評価】引き続き多くの方が来場されるよう、入込客数の増加に努め、町全体の産業振興につなげるよう情報発信を行っていく。

令和4年度 総合戦略 進捗評価シート

(令和5年実施)

3. 子育ての希望がかなうまち<少子化の抑制>						
	重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)	進捗率	実績に対する分析・評価
子育て支援・子育て環境の充実	①町の年少人口 (0~14歳人口) ※各年度3.31時点	1,007人	946人	1,046人	—	【分析】 転入28人-転出12人と26人の社会増となっている。しかし、0歳人口 (46人) -15歳人口 (95人) で49人減となっている。 【評価】 出生数については全国的な問題であり、簡単に解決できるとは考えられない。今後とも国・県の動向をみながら、社会増を推進する施策を検討していく。
	②ターゲット層 (20~39歳) 人口 ※各年度3.31時点	1,826人	1,716人	1,747人	—	【分析】 転入121人-転出174人と53人の社会減となっている。20代の職業を理由とする転出は78人 (転入35) となっており、学校卒業後の就職に伴う転出と思われる。 【評価】 地方全体の問題であり、簡単には解決できるとは考えられない。総合戦略の効果が表れている30代の社会増に向けた施策を検討していく。

最重点目標

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (R2)	実績値 (R4)	目標値 (R8)	進捗率	実績に対する分析・評価
20代・30代の社会減抑制を実現する。	年間49人減	年間53人減	年間19人減	35.8%	【分析】 町全体としては、37人の社会減となっている。20代・30代のうち20代は57人減、30代は4人増となっている。また、20代のうち職業を理由とする社会減が43人となっており、大半を占めている。20代の職業を理由としているうち7割が県外となっており、学校卒業後の就職による社会減と思われる。30代のうち住宅を理由とする社会増は10人となっている。 【評価】 20代の社会減抑制は地方全体の課題となるため、当町の施策のみでは難しい。総合戦略の効果が表れている30代の社会増を推進する施策を検討していく。